

# 第 42 回 日 本 血 液 事 業 学 会 総 会

## [報 告]

平成 29 年度 事業報告  
平成 29 年度 収支報告  
平成 31 年度 事業計画  
第 43 回日本血液事業学会総会長の選出  
平成 31 年度 収支予算  
日本血液事業学会名誉会員の推薦  
その他

開 催 日：編集委員会・役員会・評議員会

平成 30 年 10 月 1 日(月)

会 場：幕張メッセ国際会議場

## 平成29年度日本血液事業学会事業報告

### ◎会員数 平成30年3月31日現在

|     |        |
|-----|--------|
| A会員 | 8,870名 |
| B会員 | 51名    |
| 合 計 | 6,921名 |

### ◎学会機関誌「血液事業」の発行

|         |          |             |
|---------|----------|-------------|
| 第40巻第1号 | 2017年5月  | 7,140部      |
| 第40巻第2号 | 2017年8月  | 7,400部(抄録集) |
| 第40巻第3号 | 2017年11月 | 7,140部      |
| 第40巻第4号 | 2018年2月  | 7,140部      |
| 合 計     |          | 28,820部     |

### ◎第41回日本血液事業学会総会概要

総会事務局 日本赤十字社九州ブロック血液センター

第41回日本血液事業学会総会(総会長:日本赤十字社九州ブロック血液センター入田 和男所長)は、平成29年10月31日(火)から11月2日(木)までの3日間に亘り、福岡市の福岡国際会議場を会場として開催しました。

輸血用血液製剤の供給数が減少する中での赤字脱却という課題解決に向け、日々取り組まれている改善活動に関わる様々な情報収集・共有の場を提供することが本総会の役割であると認識し、テーマは「カイゼン」と致しました。現場で役立つ情報が満載の、そして何よりもワクワク感のある総会作りを目指し、九州ブロック全体で企画制作致しました。

今回より日本赤十字社血液事業本部において創設された、改善活動に対する血液事業本部長賞の最終審査が日本血液事業学会総会で行われることとなり、本総会において特別企画の1題目として開催いたしました。審査の結果、血液事業本部長賞を含む3賞について、本総会2日目の会員交見会にて表彰が行われました。

また、新たな試みとして、ポスター発表形式の改善を行い、従来の掲示物に加え、口演発表と同様にスクリーンへ画像を投影し、発表する形式といたしました。これにより従前からの課題であった、発表が見づらい、聞き取りづらいが解消されたものと確信しております。

その他のプログラムの概要は次のとおりです。

特別講演は4題、特別講演1「博多ごりょんさん細腕繁盛記」演者:西川 ともゑ(博多ごりょんさん・女性の会)、特別講演2「ディズニーを知ってディズニーを超える~危機管理は人材育成から~」演者:鎌田 洋(株式会社ヴィジョナリー・ジャパン)、特別講演3「未来を開く改善活動」演者:中間 弘和(公益財団法人日本生産性本部)、特別講演4「国鉄からJR九州へ~赤字脱却の道のり~」演者:石原 進(九州旅客鉄道株式会社)を開催しました。

教育講演は4題、教育講演1「“ピンチ”を“チャンス”に変えるクレーム対応術」演者:日下部 紘美(株式会社インソース)、教育講演2「学会の血液製剤使用ガイドラインを読み解く~血液センター職員として知っておきたいポイント~」演者:紀野 修一(日本赤十字社北海道ブロック血液センター)、教育講演3「輸血感染症検査のコスト・ベネフィット」演者:平 力造(日本赤十字社血液事業本部)、教育講演4「改善活動を楽しもう!」演者:松山 博之(佐賀県赤十字血

液センター)を開催しました。

シンポジウムは6題、シンポジウム1「危機管理体制のカイゼン」、シンポジウム2「直接抗グロブリン試験陽性赤血球製剤は輸血できるのか?」、シンポジウム3「かいつけ!貧血~鉄不足を科学する~」、シンポジウム4「品質システム導入による血液事業の改善」、シンポジウム5「造血幹細胞移植における血液事業の役割」、シンポジウム6「血液事業を支える献血者~若年層への献血構造改革~」を開催しました。

ワークショップは4題、ワークショップ1「製剤業務自動化設備を有効に活用するために」、ワークショップ2「医療機関への“顔”を磨く」、ワークショップ3「ケチケチ大作成!血液事業の節約マイスターたち」、ワークショップ4「部署間連携は採血課看護師から!」を開催しました。

特別企画1「ファイト一発!献血サポーターの心意気」では、お二人の献血サポーターに熱い心意気とおもてなしの心について語っていただきました。特別企画2「改善活動本部長賞候補演題」では、一次選考を通過した7事例の口演発表と最終審査が行われました。特別企画3「ブロック血液センター所長推薦優秀演題」では、日本赤十字社各ブロック血液センター所長から推薦のあった7題が発表され、7名の演者は総会長及び日本赤十字社血液センター連盟会長から表彰されました。特別企画4「本部長・副本部長大いに語る 血液事業“ホップ!ステップ!ジャンプ!”」では、文字通り日本赤十字社血液事業本部のトップ3に血液事業の立ち位置、将来展望等について語っていただきました。

共催セミナーはランチョンセミナーとして開催しました。共催セミナー1「国際標準の考え方～献血から輸血まで～」、共催セミナー2「成功率100%の時代を迎えたC型肝炎治療の現在とこれから」、共催セミナー3「海外血液バンクにおける、血液製剤検査と輸血検査の現状」、共催セミナー4「ANAの口ぐせ～エラーの連鎖をくいとめる!～」、共催セミナー5「地域連携を生かした災害に強い検査室の構築」、共催セミナー6「日本におけるHTLV-I感染の現状と対策の方針」、共催セミナー7「糖尿病合併症のバイオマーカー GAの臨床的意義」、共催セミナー8「The benefits of PAS and trends in U.S.A.」の8題を設けました。

演題は327題(口演165題、ポスター162題)が発表され、各会場で熱心な討論が展開されました。また、企業展示は30社が出展されました。

期間中、総会には1,011名(事前登録856名、当日受付155名)、第2日目に福岡サンパレスにおいて開催した会員交見会には774名と、全国から多数の方々が参加されました。

また、関連行事といたしまして、開会前日に学会編集委員会、学会役員会、学会評議員会を、第2日目に血液センター連盟役員会を開催しました。